

平塚らいてう (ひらつか・らいちょう) 1886~1971

女性解放運動家・社会運動家 ~時代を翔んだ<新しい女>~

出生 1886(明治19)年2月10日、東京市麹町区(現・千代田区)に高級官僚(会計検査院官吏)の三女として誕生。本名、明(はる)。両親・祖父母の愛情を受け、開明的な雰囲気の中で育つ。

履歴 日本女子大学卒業、『青鞥』を発売。5歳年下の奥村博(史)と共同生活、私生児として二児を産む。新婦人協会を結成し対議会運動。後に消費組合を設立、高群逸枝らによる無政府主義系の「無産婦人芸術連盟」にも参加。戦後は、再軍備反対婦人委員会、日本婦人団体連合会など多くの団体で活動。

業績 当初文芸誌として発売した『青鞥』を婦人問題誌に発展させ、日本の女性史上の記念塔的存在にした。また新婦人協会の活動(女性の政治集会参加・発起の権利を獲得)は婦人参政権運動の先駆となった。戦後は講和問題について平和アピールを発表し(1951~2)、女性の平和運動家として多くの活動家に影響を与えた。

評価 青鞥社の活動は、創刊の辞が日本初の女性解放宣言と位置づけられる一方、女性解放を個人の才能の中に求めて団結行動には向かわなかった点が限界ともされる。またらいてうの活動は時代の波に流されたものとも見える。しかし、彼女が(西欧文明の個人主義の輸入ではなく)禅の修行による強い自我をもって生活者としての試行錯誤から独自の思想を生み出した点、社会生活における個人生活の重みを知りその自覚に生きることの困難を知る実践家だった点は評価されている。

代表作

「元始、女性は太陽であった」 大反響を呼んだ『青鞥』創刊の辞(1911)。著作集1に収録。今は抑圧されている女性の天賦の才を發揮せよとの宣言。このとき初めて、白雪の山に棲む孤高の鳥をイメージして筆名らいてうを名乗った。その後文芸の域を出て婦人問題を扱うこととなった『青鞥』は何度も発禁処分を受け、らいてうが伊藤野枝に経営を譲った後、無期休刊した(1916)。

キーワード

新しい女 良妻賢母主義の時代、青鞥社社員は従来の日本女性になかった言動を問題にされた。らいてうは敢えて「自分は新しい女である。」「新王国を創造しようとしている。」と書き(『中央公論』1913年1月号)、批判に鍛えられて自覚を強めた。**母性主義** 女性は母性を尊重されてこそ自立できるとする考え方で、男女を同じにするために権利拡大を主張する「女権主義」に対比される。らいてうは母性主義思想をスウェーデンの女性思想家エレン・ケイの著作から吸収し、実生活の中で深め、台所から始まる消費組合運動や子どもを戦争に巻き込まない平和運動へと広げていった。

ILPノット 22歳の時、成美女子英語学校内の文学会の講師だった森田草平と塩原山中で心中未遂(塩原事件)、良家の子女にあるまじき行為と非難された。森田は事件を題材とした小説「煤煙」を書き、らいてう本人の許可を得て発表した(1909~「東京朝日新聞」連載)。

神奈川 1955~57年頃、らいてうは好んで湘南の地で静養した。奥村と出会った地でもある茅ヶ崎市には、市民運動の成果の一つとして記念碑が建てられた。また、らいてうが夫のために筆をとった奥村家の墓は川崎市の春秋苑にあり、らいてう自身もここに眠っている。

最期 1971(昭和46)年5月24日、胆のう胆道ガンのため東京代々木病院で死去。享年85歳。



Great Works 19

平塚らいてう著作集 全8巻 大月書店 1983~1984年 <367.2 / 187>

解題 「全作品のなかから、その思想的発展過程がわかるように、年代順に抽出し、集大成した初めての著作集」(刊行案内より)。編集委員はらいてうと交流のあった人々で、大岡昇平、櫛田ふき、

古在由重、小林登美枝、築添曙生（長女）、丸岡秀子、米田佐代子。全集ではなく自伝も含まないが、コラム等の短文や初出不明のもの、若干の生原稿も年ごとに配列されている。各巻に解題と解説あり。

内容

- 1 = 青鞥 元始、女性は太陽であった [1911年] 新しい女 [1913年] エレン・ケイ女史 [1914年] 他
 - 2 = 母性の主張について 青鞥と私-『青鞥』を野枝さんにお譲りするについて [1915年] 母性の主張について [1916年] 与謝野晶子との母性保護論争前駆論文] 避妊の可否を論ず [1917年] 母性保護の主張は依頼主義にあらず [1918年 『婦人公論』誌上で論争を展開] 他
 - 3 = 社会改造に対する婦人の使命 我が国の婦人参政権問題について [1919年] 社会改造に対する婦人の使命-『女性同盟』創刊の辞に代えて [1920年] 治安警察法第五条の集成と花柳病男子の結婚制限 [1920年] 新婦人協会の回顧 [1923年] 家庭改造の根本義 [1923年] 他
 - 4 = むしろ性を礼拝せよ むしろ性を礼拝せよ [1924年] 家庭の仕事を職業とみる [1925年] 農村婦人の生活と健康 [初出不明] 子供を成城小学校に入れたことについて [1926年] 高群逸枝さん [初出不明] 女高師問題について文部当局へ [初出不明] 他
 - 5 = 婦人戦線に参加して 婦選運動者へ - 全婦人団体よ、婦選をその綱領に掲げたる無産政党を応援せよ [1928年] 婦人戦線に参加して [1930年] むしろ母子保護法を制定せよ [1930年] 儲けない商売 - 消費組合について [1930年] 女性共産党員とその性の利用 [1933年 警察当局の虚偽による報道を信じて執筆したため同時代人からも批判された文章] 他
 - 6 = 娘に母の遺産を語る 嫁、姑、夫 [1936年] 青鞥時代 [1937年] われら何を成すべきか? [1937年] 娘の結婚式に臨みて [1938年] 亡き父を偲びて [1941年] 玄米食の体験を語る [1942年] 他
 - 7 = 私は永遠に失望しない わたくしの夢は実現したか [1948年] 憲法を守りぬこう [1950年] 非武装国日本女性の講和問題についての希望要項 [1950年] ダレス特使に連名で提出した声明書の案文 [働く人びととともに力づよい運動を - 世界に高まるベトナム戦争反対の行動 [1966年] 他
- 補 = 写真・書簡・年譜・著作目録 [この巻のみ解題・解説なし]

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- 📖 青鞥の時代 - 平塚らいてうと新しい女たち (岩波新書) / 堀場清子著
岩波書店 1988年 261,5p <367.2 / 308> 資料番号12482345
- 📖 平塚らいてう - 近代と神秘 (新潮選書) / 井手文子著
新潮社 1987年 275p <289.1 / 2382> 資料番号12364121
- 📖 平塚らいてう評論集 / 小林登美枝著
岩波書店 1987年 350p <436 / 7> 資料番号12257143
- 📖 青鞥 上・下 / 瀬戸内晴美著
中央公論社 1984年 2冊 <F1R / S32-37> 資料番号12767109, 12767117
- 📖 平塚らいてう - 愛と反逆の青春 / 小林登美枝著
大月書店 1977年 272p <289.1 / 1328> 資料番号10533644
- 📖 『青鞥』の女たち / 井手文子著
海燕書房 1975年 265,4p <367.8G / 19> 資料番号11051935
- 📖 元始、女性は太陽であった 上・下・続・完 / 平塚らいてう著
大月書店 1971-73年 4冊 <289.1 / 870>
資料番号10528545、10528552、10528560、10528578
- 📖 青鞥 / 井手文子著
弘文堂 1961年 227p <367.2 / 45> 資料番号11047719
- 📖 わたくしの歩いた道 / 平塚らいてう著
新評論社 1955年 299p <289.1 / 56> 資料番号10518579

<図書(部分)>

- 📖 平塚らいてう - 「生活者」としての思想家 / 米田佐代子著 (『青鞥』の50人)
平塚らいてうを読む会 1996年 p76-77 <367.21 / 96> 資料番号21045042